

社会心理学から見た防災ソーシャルキャピタル How can we develop social capital to reduce disaster damage?

○矢守克也

○Katsuya YAMORI

This presentation discusses social capital for effective disaster reduction from social psychological point of view. First, I summarize a few of the previous studies which argued a possible link between social capital and disaster reduction in a community. Second, I introduced, based on a well-known social psychological study, the concept of “subject-tool-object triangular relationship,” as one of the promising viewpoints when we consider how social capital should be developed to reduce disaster damage. This suggests we need more holistic approach toward social capital development, in which capacity building of local people (subject), hardware infrastructure and software technology improvement (tool), and understanding of local hazard (object), are all integrated and discussed within the triangular framework.

1. はじめに

本研究は、防災・減災、あるいは、災害からの復旧・復興に関わるソーシャルキャピタル（防災ソーシャルキャピタル）について、社会心理学の観点から論じたものである。まず、防災ソーシャルキャピタルに関する従来の議論を簡単に集約し、あわせて、関連の実践事例をいくつか紹介する（2節）。次に、現在の防災ソーシャルキャピタル、および、その将来像について論じる上で重要と考えられる視点として、主体・対象・道具間の〈連関構造〉をとりあげる（3節）。

2. 防災ソーシャルキャピタルとは？

ソーシャルキャピタル概念の中核 — さまざまな定義があるが、代表的なものとして、パットナムによる「協調的行動を容易にすることにより社会の効率を改善しうる信頼、規範、ネットワークのような社会的組織の特徴」 — と、防災領域における、いわゆる「共助」（地域コミュニティを基盤とした防災実践）の観点とは、容易に結びつく。このため、すでに、多くの論者が、防災におけるソーシャルキャピタルの重要性を指摘している。代表的なものに、澤井（2006）、梶・塚越（2007）、今・佐々木・加賀屋（2004）らの指摘がある。

3. 主体・対象・道具間の〈連関構造〉

社会心理学の視点から防災ソーシャルキャピタルについて考えるとき、主体（ヒトたち）・対象（モノたち）・道具（ツールたち）との間の〈連関構造〉

というよく知られた視点が有力な分析枠組を提供してくれる。

たとえば、視覚障害者、彼らが使用する広義の道具（杖や誘導する人）、および、環境（道路面）との関係においては、視覚障害者、使い慣れた杖（経験豊富な誘導者）、そして、歩き慣れた環境という3点セットが織りなす〈連関構造〉が、彼（女）の歩行を支えているのであって、彼（女）単体の能力、杖（誘導者）単体の性能（技能）、環境単体の特性を、それぞれバラバラに改善してもその効果は限定的なものにとどまる。

これと同様のことが、防災ソーシャルキャピタルについてもあてはまる。地域住民の知識や技能の向上（たとえば、緊急地震速報に関する知識）、道具の整備（たとえば、防災倉庫の設置や維持管理）、環境の改善（たとえば、堤防のかさ上げ）、それぞれ単独の要因の中に防災ソーシャルキャピタルが独立に、かつ静的に存在するわけではない。防災ソーシャルキャピタルは、これらの〈連関構造〉の中に埋め込まれている。これは、宮川・大守（2004）が指摘するように、ソーシャルキャピタルは、キャピタルとは命名されているが、人びとが所有するものというよりは、人びとが行うこと — 筆者なりに補足すれば、道具を用いて対象に対して人びとが共同で行うこと — であるとの考えとも符合する。

本発表では、防災ソーシャルキャピタルが効果的に機能していると考えられるいくつかの具体的な事例を参照しつつ、上記の点について論じる。